

## 中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年3月25日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修担当者会議

今年度も、JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生や新規就農者を対象にした集合研修にて、実践研修を補完する講義が行われ、農業普及課では講師対応や開催支援を行ってきた。

3月16日、JAめぐみのおよび岐阜県（農業経営課、中濃・郡上・可茂農林事務所農業普及課）が出席し、担当者会議が開催された。今年度14回の開催実績や受講生からのアンケート調査結果から、次年度の開催方法や講義内容などを検討した。

新型コロナウイルス感染症の拡大した昨年度からオンラインによる配信にも取り組まれ、遠方の受講生からは概ね好評であった。

農業普及課では、集合研修の開催を引き続き支援し、研修生のスキルアップや新規就農者の早期の営農定着に向けた支援を行っていく。（地域支援係）

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■小麦 穂肥増量による収量向上の検証

岐阜県内で小麦「さとのそら」は約1,500ha栽培され、その内中濃地域では、農業法人や個人農家等が約220haを栽培している。他の地域と比較して中濃地域の単収は低位に推移しており、収量向上に向けた栽培技術（穂肥増量）を実証している。

3月3日、昨年11月3日に播種したほ場にてブロードキャスターで穂肥を散布した。実証区では慣行区よりも穂肥を窒素1kg/10a増量している。

今後は、赤かび病の適期防除の実施や適期収穫について、JAと連携して生産者へ情報提供し、良質な小麦生産を支援していく。また、穂肥増量の効果を収量調査等にて確認していく。（地域支援係）



【穂肥散布の様子】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■トマト スマート農業研修会

中濃管内のトマトは、冬春作型を中心に9戸、約1.7haで栽培されているが、生産者組織が無く、栽培品種や栽培方式も異なり、独自に生産・販売して特徴ある経営を展開している。このため、栽培技術やスマート農業への取り組みなど生産者間で大きな差が見られる。

そこで農業普及課では、春から初夏の栽培管理のポイントやハウス内環境制御などについての研修会を、3月15日に中濃総合庁舎で開催した。管内から6名が参加し、熱心に聴講して多くの質問が出された。

農業普及課では、今後も研修会を開催し、将来はスマート農業の推進母体となるような自主研究グループを育成していく。（地域支援係）



【研修会の様子】

## ■ 円空さといも **丸芋率向上や機械化体系に向けた試験ほ設置**

中濃地域で広く栽培されている円空さといもは、丸い形が特徴であるが、長い芋も収穫され、丸芋の割合を向上させることが課題となっている。また、機械化体系の畝内施肥を進めるにあたって、基肥の種類を減らす必要がある。

3月17日と25日、関市内の円空さといも生産組合員のほ場において、丸芋率向上に向けた土壌改良材試験と基肥試験の植え付けが行われた。

農業普及課では、丸芋率向上や機械化体系による産地の発展に向け、試験ほ場の生育調査や収量・品質調査を行っていく。  
(地域支援係)



【試験ほ植付けの様子】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■ ゆず **かみのほゆず産地戦略会議で「産地方針」の取組みを推進**

農業普及課では、「かみのほゆず」のブランド力向上の取組みを支援している。

3月16日、かみのほゆず(株)、ゆず生産者代表、関市東商工会、関市の関係者からなる産地戦略会議を開催した。会議では、令和元年度に策定した「かみのほゆず産地方針」の進捗状況について意見交換を行ったほか、かみのほゆず(株)から6次産業化プランナー指導の実績について情報提供があった。

農業普及課では、次年度も関係機関と連携を図りながら、「かみのほゆず産地方針」に基づき、ゆず産地振興を進めていく。  
(地域支援係)



【会議の様子】

### ■ 武儀地区農業婦人クラブ連絡協議会 **今年度で活動終了**

昭和48年8月に設立された武儀地区農業婦人クラブ連絡協議会は、令和4年3月24日に臨時総会を開催し、同日解散した。

同協議会の各グループの活動は、農山村における生活改善に始まり、今日の6次産業化の先駆けとなる農産加工を行ってきた。各グループの連携を図り、講習会や研修会等を開催することにより相互啓発に努めてきたが、高齢化と会員数の減少により同協議会の活動は終了することとなった。

農業普及課では、今後も活動を継続するグループに対して、6次産業化の取組み等を支援していく。  
(地域支援係)



【臨時総会の様子】